

特集 「新教科書2」— これからの英語教育

『VISTA English Communication I・II』  
の編集方針と内容

昭和女子大学 金子朝子

いよいよ平成25年度から学年進行で新学習指導要領に移行となる。必修の「コミュニケーション英語I」の教科書『VISTA English Communication I』は、非常に好評を得て多くの高校で採択していただいている。続いて、平成26年度用の『VISTA English Communication II』が刊行となる運びである。『VISTA II』も『I』と同様に、易しい英語を通してバラエティに富んだ話題と場面を提供する教科書となっている。『VISTA I』を採用していただいている高校はもちろんのこと、まだ、ご採用いただけない高校の先生方にも、『VISTA I』、『II』の基本的な編集方針と、特に『II』の内容についてここで紹介をさせていただきたい。

**(1) 編集の基本方針**

『VISTA』は創設以来、「英語の学習を通して、ことばと人間や社会との関係など、広くことばへの関心を高め、ことば・文化・民族の多様性とその共存、自然と人間との共生の大切さを学ぶ」教科書作りを、その基本方針としている。基礎的な英語の定着を図り、学んでみようとする動機づけを高める内容づくりに力を注いでいる。

**(2) VISTAの特徴****① グローカルな視点**

『VISTA』では、グローバルに世界の様々な文化を学ぶとともに、ローカルに自国や地域の文化を再発見しながら、地球とそこに住む者との共存、共生を考える視点を大切にしている。新学習指導要領にもあるように、外国語の仕組みやその言語の背景にある文化に対する理解を深めることは、日本語や日本の文化に対する理解を深め、広い視野や国際感覚、国際協調の精神を備えたグローバル人材の育成にもつながるものである。

グローバルな視点を取り入れるために、題材の選択は最も重要である。『VISTA II』の10レッスンには、世界の朝食、アイルランドの文化、さかなクン、ノーベル賞のエピソード、ツタンカーメン、ユニークな国々、ガラパゴス島、書道パフォーマンス、水族館、日本とトルコなどバラエティに富み、しかも、生徒の興味、関心と呼ぶ話題性の高い題材を揃えている。

**② 「わかる」英語**

たとえ英語に対して苦手意識を持ち、あまり興味を寄せていない生徒でも、教科書を「開いてみよう」と思い、読んでみたら「わかる」と思ってもらえる教科書、つまり、英語学習への動機づけとなる教科書であることを心掛けた。

とにかく教科書を「開いてみよう」と思ってもらうために『VISTA II』は、上記のように生徒が関心を持つ題材や話題性のあるテーマを揃えている。そして「わかる」と思ってもらうために、各レッスンの構成を次のように工夫した。

まず、トップページのタイトルはできるだけ短く、端的にそのレッスンの題材の内容を表すものとした。次に、その下に簡単な日本語での導入がある。指導書には英語版のサンプルが掲載されているので、英語で導入をしたい先生方には参考にしていただける。また、同じページにはレッスンの内容を想像しやすいように1ページのほとんどを使う大きな写真を利用したWARM UP!がある。日本語で3題の簡単な質問があり、生徒は写真にまつわる易しい英語を聞いて解答する。次に、レッスン本文は3セクションに分かれ、セクションごとにReading Pointが提示されている。該当のセクションから何を読み取ればよいのかのポイントがわかる。1レッスンで扱う文法は2項目に絞ってある。本文中の新出文法にはマークをつけ、本文の後ろの文法解説STUDY

IT!が参照できる。また、内容に関する英語のQ&A!が各セクションにあり、内容理解の手助けとなっている。発音については、生徒が使うほとんどの辞書がすでにカナ発音を用いており、発音記号に馴染みのない生徒への配慮から、発音記号とカナ発音を併記した。

**③ 基礎・基本の定着**

中学校での指導内容との円滑な接続を希望する現場からの声は大きく、『VISTA I』では、生徒の実態に応じて「コミュニケーション英語基礎」もカバーできるような内容とした。特に文構造や文法事項については中学校の指導内容を再整理し、高校での新しい学習事項は要点を繰り返し学べる構成とした。新学習指導要領では、「コミュニケーション英語I」のみが必修のため、高等学校で学ぶべき文法はすべて『VISTA I』でカバーしているが、『VISTA II』では、それらの基礎を土台に、話し手、聞き手の考えや気持ちを理解し、聞き手、読み手に自分の考えや気持ちを伝えるための文の構造や、表現を学ぶ練習を多く組み込んである。

前課の新出文法は、次のレッスンで必ず繰り返すように配慮したのも『VISTA』の特徴である。教科書では、ある文法事項を一度学ばると、その後全く使われなかったり、忘れたころに出てきたりするものが多い。VISTAでは、同じ文法事項を次のレッスンの違うコンテキストの中で繰り返し用いることで、生徒から「これは前のレッスンで勉強したな」という気づきを促したいと考えている。

**④ コミュニケーション能力の育成**

新学習指導要領の改善事項の1つに、生徒が英語に触れる機会を豊富にすることが盛り込まれている。多様な場面における言語活動を経験させながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を有機的に関連付け、総合的なコミュニケーション能力を育成しようとするものである。

『VISTA』では、易しい英語を上手に使うって豊富な英語のインプット、インタラクション、アウトプットの機会を作るよう配慮した。インプットとして「聞く」機会を豊富にするために、レッスン導入のWARM UP!では簡単な英語によるクイズ形式のイントロがあり、本文の後のPRACTICE!でも必ず新出の文法事項をターゲットとしたリスニング問題を配置した。また、「読む」機会を増やすために、

Reading Skillのコーナーを置き、英文を正確に読むコツを学ぶ。インタラクションについては、まず、本文の各セクションのQ&A!が教師と生徒間や生徒同士が英語で聞いて話す機会となる。さらに、PRACTICE!にも必ず英語で情報交換を行う練習があり、ENJOY COMMUNICATION!のコーナーでは、英語を使用する場面を想定して、その場面でよく用いられる表現を中心に会話をする。生徒の実態に応じて、4技能を組み合わせて活用ができる。アウトプットとしては、特に易しい英語で「書く」機会を増やしてある。各レッスンの後にTHINK!のセクションを置き、まず、本文の内容を深く統合的に考えてもらうためにPISA型の問題を置いた。次に、テキストの内容を英語でまとめる穴埋めを行う。単にテキストから単語を拾う作業ではなく、テキストが伝えたいことは何かをつかんでから、英語でまとめを行う仕組みになっている。また、USE ENGLISH!をレッスンごとに置き、『VISTA I』では「褒める」「事実を報告する」「提案する」「理由を述べる」などを、『VISTA II』では「アドバイスする」「依頼する」「賛成や反対をする」「結論をまとめる」など、言語の機能に配慮しながら、それぞれのレッスンの内容に関連した事柄について4技能を統合して用いる機会としている。

**(3) 文法の扱い**

中学校で学習した基礎文法の復習・確認のために、『VISTA I』では本文に入る前に「ののちゃんの英文法—基礎を復習しよう—」を掲載している。ここでは、主語、be動詞、一般動詞、目的語、形容詞、副詞、前置詞、冠詞を取り上げ、文法の基礎の基礎を復習する。「ののちゃんの英文法」のねらいは、高校でより複雑な文構造を学ぶ前に、文を構成する1つ1つの要素についてもう一度確認することにある。生徒の理解度に合わせて様々な活用が可能である。新学習指導要領では、「コミュニケーション英語I」が全生徒必修となり、学習指導要領にある8項目の「文法事項」のすべてを「コミュニケーション英語I」で扱うこととなった。したがって、『VISTA I』では中学校で学習した事項に加えて、不定詞、関係代名詞、助動詞、代名詞のうちitが名詞用法の句および節を指すもの、動詞の時制などについて、より深く学び、さらに高校で初出の関係副詞、仮定

法、分詞構文も学ぶことになる。『VISTA II』では、疑問詞やifで始まる節、比較表現、名詞を修飾する分詞、知覚動詞、tell～to do、使役動詞、関係代名詞what、how to do、It seems that～、現在完了進行形、形式目的語it、部分否定、can be done、関係代名詞の非制限用法、have been done、過去完了形、強調構文等を学んでいく。

『VISTA』では、できるだけ運用度が高い文構造や文法事項を、言語活動を行いながら学べる様に配慮した。高等学校で初めて学ぶ事項については、典型的な使用例のみに絞って指導することとしている。

#### (4) 語彙の増加

新学習指導要領では、学ぶべき語彙が300語も増えた。「コミュニケーション英語Ⅰ」では400語、Ⅱ、Ⅲでは各700語が新出となり、中学と高校を合わせて、これまでの2,200語から一気に3,000語を学ぶことになる。中学既習語に上乘せする語彙は400語で現行と変わらないが、実は中学での履修語彙がすでに300語増えているので、『VISTA』で学ぶ語彙レベルもどうしても高くなる。

『VISTA』では、本文の各ページの新出語彙数は、人の短期記憶が7±2であることを考慮して、多くても9語までに抑えた。そのために、かなりの語彙数の上乘せを本文だけでこなすことが難しく、速読用の読み物として『VISTAⅠ』ではThe Little Princeを、『VISTAⅡ』ではCharlie and the Chocolate Factoryを易しくリライトしたENJOY READING!や、楽しんで英語に触れてもらうためのTake a Break!、また、巻末のUSE ENGLISH!表現集(VISTAⅠ)や、SUDY IT! Useful Sentences [活用例文集](VISTAⅡ)にも新語が加えられている。

巻末のWORD LISTにも語彙学習のための工夫がある。辞書を教室に持参しない生徒が多くなり、現場からの強い要望を受けて、簡単な辞書の機能も持たせた。生徒が学んだ語彙をチェックできるように、四角のマークを付した。語彙リストも活用することで、新しい語彙を積極的に言語活動に使って欲しいと考えている。

#### (5) 英語で授業

学習指導要領に「英語で授業を行うことを基本とする」とあるのは、教師が英語で授業を行うととも

に、生徒も授業の中でできるだけ英語を使用することによって、英語による言語活動を中心とした授業の展開を期待していることを意味している。しかし、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行う配慮は重要である。生徒の理解度を把握しながら、簡単な英語でゆっくりと繰り返して話すことで、生徒が英語の使用に慣れるよう指導をしていきたい。もちろん、この規定は英語で授業を行うことの重要性を強調するもので、授業のすべてを必ず英語で行わなければならないということではないことも確認しておきたい。

小学校5年生から「英語活動」を通して英語に慣れ親しみ、中学での言語活動を中心とした英語の授業を受けた生徒が高校に入学するのは、2016年のことになる。それまでに、少しずつ英語での指導の割合を増やしていくようにしたい。

授業中の教師の発話は大きく分けると、社会的目的で使うもの、授業運営の目的で使うもの、授業の内容そのものを指導する目的で使うものに分類される。まずは、社会的目的で用いる授業の始めと終わりの挨拶や生徒との個人的な話のやり取り、そして、授業運営の目的で使う“Please open to page 10.”などのやり取りから、英語を使う機会を増やしてはどうだろうか。『VISTAⅠ』には、Get Ready!と題した教科書に入る前のPre-Taskの1つとして、教師や生徒が授業で使う英語の表現を掲載している。手始めに、ぜひここを活用して欲しい。

このように『新VISTA』は、生徒が英語の基礎・基本を確実に身に付けてそれらを活用しながら学習を進められるように、また、生徒の理解の程度に応じて補足的な学習や発展的な学習もできるようにと、様々な配慮をしながら編集を行った。ぜひ、多くの先生方と生徒たちに活用していただけることを祈ってやまない。

